

## 巻 頭 言

地域貢献を旨として活動している教育臨床総合センターは、こころの支援研究部門（心理教育相談室）、そだちの支援研究部門（発達支援相談室）のふたつの相談室を抱え、地域の方々のこころや発達に関する相談支援を行い、さらには研究教育活動にも従事する機関です。

平成28年度は、国立大学法人としての第三期中期計画初年度に当たり、当センターに係る活動は、非常勤カウンセラーの導入を促す目標が立てられています。

「学外からの要望が多い心理教育相談や発達支援相談活動を充実させるために非常勤カウンセラー等を導入する」すなわち、当センターの活動のなかでも両相談室の第三期中期計画における位置づけはますます大きくなり、相談活動の一層の充実が図られようとしています。この背景としては、教育現場における実態が、一昔前の教師が授業のみ行っていれば事足りる教育の在り方から、不登校、いじめ、貧困、発達特性を持つ子どもたちの増加に見られるように、児童生徒の生活面までも視野に含めた支援や教育が必要とされる時代状況があります。中央教育審議会では、平成27年12月に「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」が取りまとめられ、教育現場における教師以外の専門職の養成が強く打ち出されています。すなわち、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育専門家等の多様な専門性を持つスタッフを学校に配置し、学校の教育力・組織力の向上が謳われています。

その時代状況の流れの中で、愛知教育大学も学部組織の改編という大きな改革に乗り出しました。すなわち、平成29年度入学生からは、従来の現代学芸課程を廃止し、教育支援専門職養成課程を新設するに至りました。この新課程は、心理コース、福祉コース、教育ガバナンスコースの3つのコースから構成され、文部科学省の打ち出している「チーム学校」を実現する専門職を養成せんとする、まさに時宜にかなったものです。すなわち、教育現場に限れば、心理コースではスクールカウンセラー等の養成、福祉コースではスクールソーシャルワーカー等の養成、教育ガバナンスコースでは教育行政を司る事務職専門家の養成が図られます。

このような大学当局の大きな動きの中で、当センターも先に挙げた第三期中期計画に見合った計画の実行がなされました。すなわち、平成27年度には、土曜日一日という限られた配置ではありますが、外部から新たに非常勤カウンセラーを雇用し、外部クライアントに対する相談活動の充実のみならず、院生をサポートするスーパーバイズなど、実習補助的な役割も務めていただきました。その任に就いていただいた前田章先生は、愛教大の修了生でもありませんし、愛教大とは縁遠いところから来ていただきましたが、土曜日一日の枠には収まらないほどの仕事ぶりを発揮し、心理教育相談室の相談活動、実習活動に大いに貢献してくれています。今後も、中期計画に謳われているように相談活動の充実のためには、大学当局には一層の非常勤カウンセラー枠の拡大を要請したいところです。

また、今年度も豊明市教育委員会、豊明小学校の全面的なご協力の下、文部科学省より受託しました「発達障害早期支援研究事業（祖父江典人代表）」がつつがなく実行されました。今回は単年度事業でしたが、豊明小学校校長木村吉男先生には足繁く撮影現場などにも足を運んでいただき、『先生のための発達障害～再現ドラマ風』DVDが無事完成に至りました。本DVDは、発達特性を持つ子どもたちに現場教員がいかに関わるかをテーマとしており、校長木村吉男先生ならびに教頭近藤雅彦先生、特別支援教育コーディネーター早川貴宏先生、各担任教師の先生方にはさまざまなお知恵をお借りしました。ここに記して感謝の意を表します。

なお、本DVDは豊明市の関係各教育機関に頒布するとともに、当教育臨床総合センターのホームページにでもご覧いただくことが可能ですので、どうぞご覧ください。

平成29年度は、学部再編に伴う新課程の始まりと共に、当センターも今後の運営においてさまざまに検討事項が出てくるやもと思われませんが、今後とも関係各機関の皆様のご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成29年3月吉日  
教育臨床総合センター長 祖父江典人